

届け 世界の果てまでも

令和3年 3月 2日

No. 68

文責 校長 飯久保一男

小さなことをおろそかにしない

3月より、また、タイトルをマイナーチェンジしました。
春の息吹を感じる3月、出会いと別れの3月

環境犯罪学上の理論に「割れ窓理論」という考え方があります。次のような理論です。

治安が悪化するまでには次のような経過をたどる。

建物の窓が壊れているのを放っておくと、それが「誰もこの地域に対し関心を払っていない」というサインとなり、犯罪を起こしやすい環境が生まれてしまう。

- ゴミのポイ捨てなどの軽犯罪が起きるようになる。
- 住民のモラルが低下して、地域の振興、安全確保に協力しなくなる。
- さらに環境を悪化させる。
- 凶悪犯罪を含めた犯罪が多発するようになる。

したがって、治安を回復させるには、

- ← 無害・軽微な違反行為でも取り締まる。
- ← 警察による徒歩パトロールや交通違反の取り締まりを強化する。
- ← 地域社会は警察に協力し、秩序の維持に努力する。

などを行えばよい。



1980年代のNYの地下鉄

有名なのはニューヨーク市の取り組みです。ニューヨーク市は1980年代ごろアメリカ有数の犯罪多発都市となっていました。ジュリアーニ市長が「家族連れにも安心な街にする」と宣言し、この「割れ窓理論」を応用しての治安対策に乗り出しました。

警察に予算を重点配分し、警察職員を5,000人増員して街頭パトロールを強化したほか、落書き、未成年者の喫煙、無賃乗車、万引き、花火、爆竹、騒音、違法駐車など軽犯罪の徹底的な取り締まり、歩行者の交通違反やタクシーの交通違反、飲酒運転の厳罰化、路上屋台・ポルノショップの締め出しなどの施策を行いました。

落書きで有名だった地下鉄は、今ではきれいな車体で、安全な乗り物としてニューヨーク市民の足になっています。そしてジュリアーニ市長の就任から5年間で、犯罪件数は殺人が67.5%、強盗が54.2%、婦女暴行が27.4%減少し、治安が回復したということです。

東京ディズニーランド・ディズニーシーは、ささいな傷をおろそかにせず、ペンキの塗りなおし等を夜間に頻繁に行うことで、従業員や来客のマナーを向上させることに成功しているということです。ディズニーランドに行ったときの記憶をたどりますと、確かにきれいですし、ペンキが剥がれていたり錆びていたりしているところを見た覚えがありません。



山梨県警ホームページより

本校のげた箱を見ますと、靴がきちんと整頓され、揃っています。こういう一つ一つのことをおろそかにしない取り組みが大切だと考えています。本校の子どもたちは、休み時間の終わりの時間を守りますし、整列をさせればピシッと揃います。何でもかんでも揃えればいいわけではありませんが、学校の「荒れ」「学級崩壊」というのは、こういうところの「乱れ」から始まることもあると思います。今年は特に、マスク着用の徹底や手洗いの徹底など、子どもたちにとっては、徹底しなければならぬことが増えましたが、それら一つ一つのことをおろそかにせずに取り組んできています。

当たり前のことが当たり前に行えることは、カッコイイこと なのです。

家庭ではいかがでしょう

- 部屋を掃除しなきゃと思うけど、忙しくて。
- ほこりが気になるところがあるけど、平気だね。
- 玄関の靴が乱雑？ そのくらいで大げさな。



これらのことがすぐに子どもに影響を及ぼすことはないと思いますが、「割れ窓理論」からすると、環境上、何かしらの影響があることとなります。また、

- 早寝・早起き・朝ごはんをはじめとする規則正しい生活をする。
- 忘れ物をしないこと。課題や提出物を期限までに提出すること。
- 身なりを整えること。



これらのことなどは、家庭で指導していただかなくてはならない内容です。

実は **当たり前のことを当たり前にするというのは、大変なこと** でもあるのです。

そして、日常の中で、

- 子どもたちの小さな変化を見逃さないこと。

これは、親にとっても教師にとっても、欠かせない大切なことです。

ディズニーランドが愛される理由

その理由の一つに、常にきれいに掃除されていることがあるそうです。東京ディズニーランドには、カストーディアルと呼ばれる清掃スタッフが600人います。自分のエリアを15分ごとに回って、きれいな空間をつくり出しているということです。

モットーは「赤ちゃんがハイハイできるくらいきれいにすること」だそうです。

